

進路通信

兵庫県立北須磨高等学校 進路指導部

【2023年度入試 ② (国公立大) 合格は2人に1人以上】

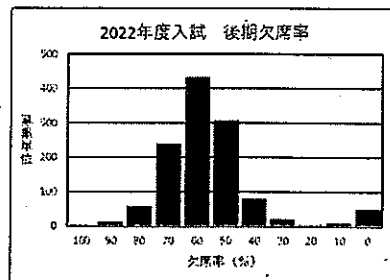
2023年度入試についての第2回です。(第1回は9号6月2日付に掲載しました)今回は国公立大学2次(個別)試験について。

49回生の前期国公立大学への出願者は137名、推薦入試への出願者は19名でした。年次全体に対する国公立大学の出願率は60%になり、2人に1人以上が国公立大学に出願するのが北須磨高校での大きな流れで、これは例年変わりません。ここ数年、推薦入試での合格率は高率です。出願先を十分検討して対策を万全にした人が多かった結果です。

区分	出願	受験	合格	合格率
推薦等	19	19	9	47.4%
前期	137	131	65	49.6%
中後期(のべ数)	133	53	22	41.5%
前期+後期(中期含む)の出願(実数) 114				

一般入試の前期と後期の両方に出願した人は114名です。国公立大学への出願は前期・中期・後期とも同時に行いますから、国公立志望者のうち大多数の人は、後期まで視野に入れた、一般的な出願を行っていることとなります。結果は表からわかるように、前期試験での合格率はほぼ5割で例年を上回りました。前期で不合格になった人は後期試験を受験するのですが、前期の合格発表から後期試験までの2週間ほどの間に気力を衰えさせてしまう人も少なくありません。現に前期試験を受験し、合格できなかった人のうち52名は後期にも出願していましたが、実際に受験したのは42名でした。後期受験を予定した人のうち10名が何らかの理由で受験をあきらめてしまったわけですから、それでも北須磨生の後期受験率は高率です。全国的には後期もがんばるつもりだった人のうち、半分以上はあきらめてしまっているのが現状です。

グラフは一昨年の後期試験の欠席率です。「募集単位」は学部または学科と考えて下さい。平均の欠席率は61%です。自分を取りまく前後左右に8つの席があるとする、そのうち5つは空席ということです。欠席率が90%を超えるところも募集単位で10以上あります。49回生の中後期の合格者は22名でした。後期を最後まで粘った人が4割以上の確率で合格しているのは見事です。後期まで見据えた受験校選びが大変重要であることがよくわかります。



共通テスト後の出願では、厳しい選択を迫られる場合もあるため、後期受験まで冷静に見通して出願し、準備を入念に行うのは難しいことです。今年は結果として前期・中期・後期で合計84名(実数)が合格しました。この状況はここ数年ほぼ変わりません。一般入試では、国公立大学に出願して最後まで頑張れば、2人に1人以上(84/131)が合格するのが北須磨高校の状況です。国公立大学への実質合格率は64%!出願すれば、自分か、隣の席の友人か、どちらか一人以上が合格します。

【共通テスト出願書類】

志願票はもう提出済みでしょうか。締切は来週ですが、前号でも注意した通り「締切日は提出日ではない」ことに注意して、できるだけ早く提出してください。ぎりぎりにしようとすると、急病や思わぬ手続きミスのため、出せなくなる恐れもあります。事務手続きは後回しにせず、すみやかにすませてください。

